

令和6年4月18日

## 4月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県の原木生産は順調、各地区共販所への入荷はスギ、ヒノキとも順調である。間伐材、小径木も随時入荷している。製材工場の原木引き取りは製品の売れ行きが悪く、若干鈍い。スギ3.0m柱物は弱気配で推移、4.0m中目は良材の引き合いが強く高止まりで推移。ヒノキ3.0m、4.0mは保合で推移している。

群馬県では原木集荷は順調だが、出材量が減少傾向にあるため、原木価格は上昇しており先行きが不安。製材工場では人手不足のため操業率は通常の80%程度。首都圏の製品市場からの受注は低調で地場の仕事も少ない。また公共工事も予算の関係で規模縮小の傾向が多い。全ての製品で在庫が多く通常の1.2倍である。建築現場が全体的に遅れており、預かりの製品が多い。製品価格、売れ行きとも厳しい状況は変わらない。

### 2. 米材

2月の米国住宅着工数は前月比14.3%増の152万戸(年率換算)と堅調であった。米国製材品価格も2月上旬より反転上昇したが、3月中旬に横ばいに転じた。建設シーズン到来を控えているが勢いが無い。米国の港頭在庫は潤沢である。カナダでも伐採期に入り、港頭在庫は平常に戻りつつある。米マツIS級並の4月積み対日輸出価格は未確認情報ながら前月比横ばいの\$940/千SCRで決着した模様。産地の製材品価格はほぼ横ばい。ランダムレンジス紙発表の15種平均価格(4/3)は\$422/M3、3月頭に比べ4.7%の上昇となっている。

2月原木入荷は90千 $m^3$ で10万 $m^3$ を割り込んだ。中国・四国が80千 $m^3$ と非常に偏った入荷である。出荷も118千 $m^3$ と低水準。在庫は国内移送分を含め前月より減少し149千 $m^3$ 、在庫率は1.12ヵ月。東京木材埠頭の3月製品入荷は15千 $m^3$ (前月比37.4%増)、出荷は12千 $m^3$ (同8.9%増)、在庫は40千 $m^3$ (同9.2%増)。産地と日本国内で温度差があり買いに対して消極的な姿勢である。国内最大手工場は羽柄材を4月より値下げした。

### 3. 欧州材

フィンランドの港湾スト(3/11~3/25)が4/8までとなり、さらに延長の可

能性もある。製材工場では出荷できず製造の停止を余儀なくされている。4～6月積みは交渉中だが、1～3月積みと比べ現地価格は10%上昇。為替も円安進行で強烈なコストUPとなる。7月積みは欧州の全サプライヤーがスキップする模様で、夏以降は大幅な供給減少が見込まれ、品不足の懸念がある。間柱類は堅調な動きであるものの、まだ価格を押し上げるまでの迫力は見られない。しかし今後は強含みとなる。集成柱、集成梁は需給が見合っており、落ち着いた動きであるが、間柱類と同様に先行き強含みとなるだろう。東京港の3月製品入荷は16千 $m^3$ で喜望峰回りにより遅れていたものがまとまって入荷した。出荷は13千 $m^3$ と堅調である。在庫は29千 $m^3$ で昨年3月末(47千 $m^3$ )に比べるとここ1年間で大きく調整された。

#### 4. 北洋材

産地の気温は平年並みで伐採時期は終了間近である。伐採は需要不足と機材不足により低調。中国の旺盛な引き合いは春節明けに一段落した。しかし安定性のあるシッパーには依然として引き合いが集中している。ウズベキスタン等向けの低グレード品の引き合いは堅調。アカマツ原板のオフナー数量は極めて少ない。アカマツ完成品では\$600/ $m^3$ 近い価格が一部で通り始めている。野縁良材のコストは10万円/ $m^3$ を超える。シッパーは赤字を背景に背水の強気姿勢である。ロシア材の独歩高に警戒感はあるものの、先行きの数量不足を見越して10万円超えで手当てする向きが出始めている。国内北洋材工場では原板在庫が極めて少なく、完成品を購入して再仕分けする業者が増えている。3月の製品入荷(東京+川崎)は9千 $m^3$ と予想以上の減少で回復が見られない。出荷は13千 $m^3$ と実需低迷で低位安定。在庫は21千 $m^3$ で未だ底に達していない。

#### 5. 合板

合板用原木はコンスタントに入荷しているが、原料の高騰が続いており、原木や接着剤はさらに値上げの模様。2月の国内合板生産量は20.1万 $m^3$ 、うち針葉樹合板は19.8万 $m^3$ 、出荷量は18.4万 $m^3$ で在庫量は18.5万 $m^3$ となり、うち構造用合板の在庫は15.3万 $m^3$ で前年同月比は102.2%。合板メーカーの減産による4月受注分からの値上げ表明を受けて需要家筋に集中的な買い(殆ど仮需)が発生した。メーカーは更なる減産で値上げに踏み切り、1年3ヵ月続いた値下げが止まると予想される。輸入合板は当用買いに徹していた中で、期末に在庫消化の安値販売が散見されたが、国産合板の値戻情報と円安により相場は引き締まると見られる。2月の合板輸入量は17.7万 $m^3$ で、前月比87.9%。前年同月比82.2%と入荷の少なさが目立つ。インドネシアでは米国向

けを中心に海外向けが回復しているが、日本向けは依然として低迷。マレーシアでは原材料の値上げと為替の円安が合わさって価格は値上げ傾向にある。

#### 6. 構造用集成材（国内産）

3月のラミナ入港量は通常の5割程度で在庫量も減少傾向。スエズ運河の使用取り止めが相次いでおり、入港遅れ（2～3ヵ月）によるラミナの欠品が懸念される。現在入港の第4・四半期契約のラミナ価格は€260～270/m<sup>3</sup>程度で為替の円安により輸入コストは上昇している。国内集成材メーカーの受注は微減、販売は前年同月比90～95%、在庫は適正水準となっている。構造用集成材の2月輸入量は小断面21,511 m<sup>3</sup>、中断面17,510 m<sup>3</sup>である。各プレカット工場では輸入集成材の減少で在庫をもつ動きに切り替わることが予想される。

#### 7. 木材チップ（東海）

原木は製紙・バイオマス発電用とも小径材（C材）の引合が強く、慢性的に不足感が継続。燃料材は解体物件の減少に伴い、建廃入荷量は減少。製紙用チップは用紙・板紙の消費が振るわず、一部大手製紙会社では減産・操短（80～90%）を継続中。春先から夏場にかけて大型定期修理が連続しており、消費は減少。国内チップ工場では国産材チップ原木の集荷増の基調は変わらない。製紙とバイオマスのバランスを見ながらの生産となっている。

#### 8. 市売問屋

材木店では仕事量が少ないため、在庫する動きが少ない。国産材、外材構造材ともに売れ行きが良くない。国産材造作材は弱含み、外材造作材の単価は高止まりで推移すると見られる。国産材には不足感がないため値上がりはなく、欧州材、ロシア材も急に値上がりはしないだろうと見る向きが多い。

#### 9. 小売

首都圏では住宅需要が過去に例のないほどの落ち込みである。プレカット工場の稼働率は前月に続き7割前後と低調。町場工務店では新築工事の受注や見積依頼が激減している。スギ・ヒノキ角類の販売不振が続いており、価格は弱含み。値段を下げて販売につながらない。WW集成柱、RW集成平角の仕入価格がジリ高になっているが、手持ちの仕事量が少ないため慌てる様子はなく、当用買いが続いている。国産材造作材の荷動きは相変わらず低調である。米材造作材は強保合で推移、スプルー、米ツガともに入荷量が少なく逼迫感が出ている。外材中心に納期遅れや在庫品薄などの発生によりポプラLVLの出荷が非常に増えている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和6年4月18日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
欧州材	製材品	↗	→	↗
北洋材	製材品	→	→	→

注) 北洋製材品は東京・川崎、欧州製材品は東京

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	→	↘	→

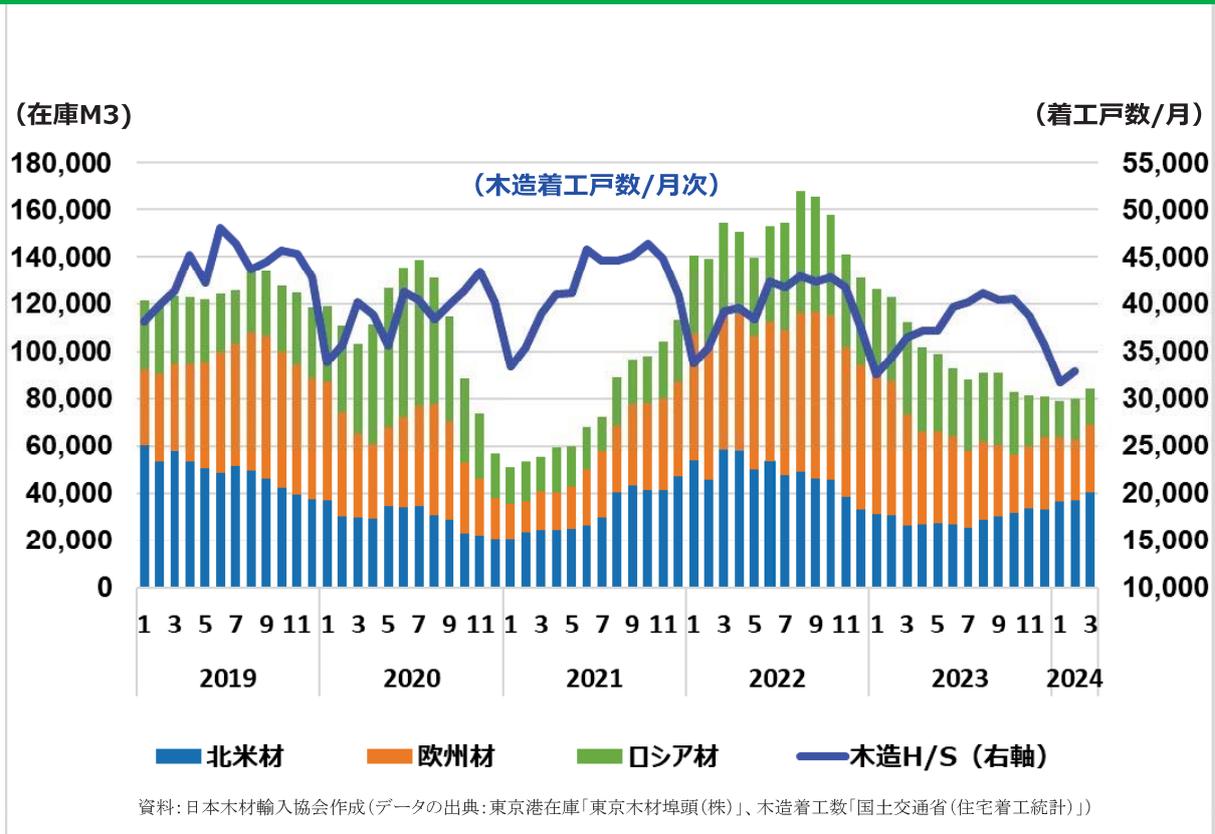
3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m) 2等	→
			スギ中丸太(3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材(3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太(4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 10.5×10.5×4m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
欧州材	製材品	東京・問屋店頭 渡し価格	米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13'	→
			米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→
北洋材	製材品	北陸・オントラ 京浜・オントラ	ホワイトウッド'ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
			〃 間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	↗
構造用 集成材	国内産	東京・問屋店頭 渡し価格	アカマツ原板(KD) 40×165 1~3等	↗
			アカマツ(KD) 30×40上級	↗
	欧州産		アカマツ(KD) 24×28 積木	→
			〃	〃
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド'集成柱 JAS 5プライ	↗
			レッドウッド集成梁 JAS 105×150~360×3.985	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
			ホワイトウッド集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985	↗
			レッドウッド集成梁 JAS105×150~360×3.985	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↘

注) 令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加

参考図表 1

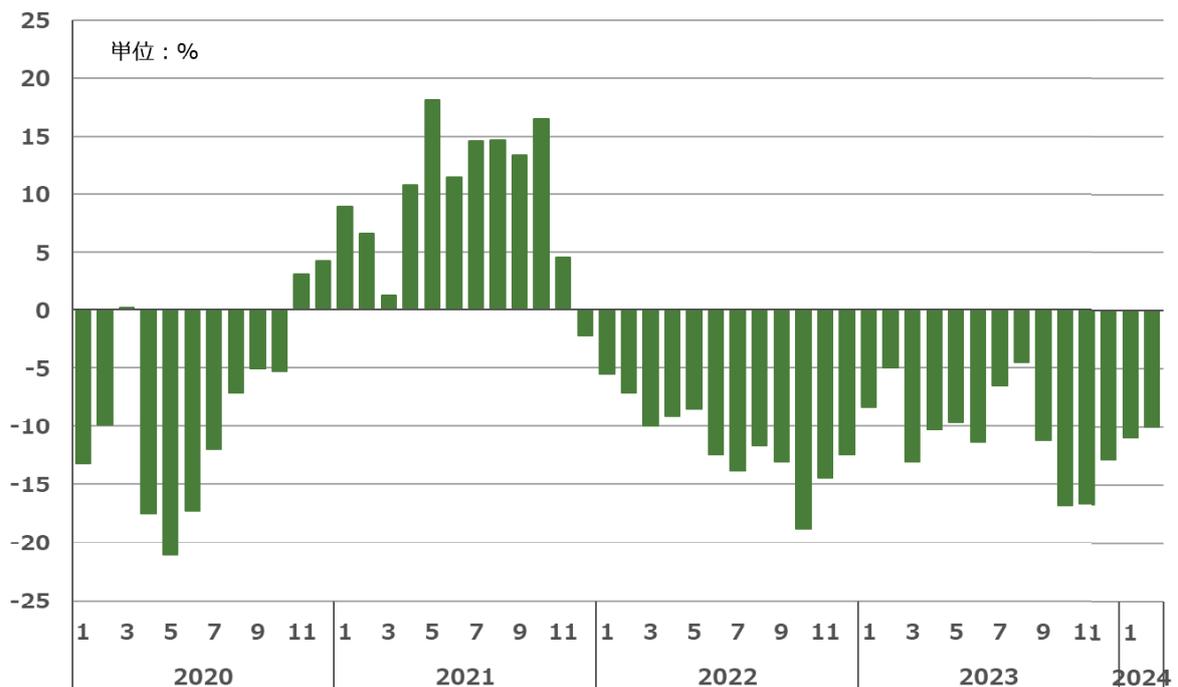
「東京港製材品在庫」と「木造着工数」の推移 2019～24年



参考図表 2

木造持家住宅着工戸数の対前年比の推移

住宅着工戸数のうち、国産材の使用比率が比較的高い「木造持家」着工戸数についての、対前年比率。

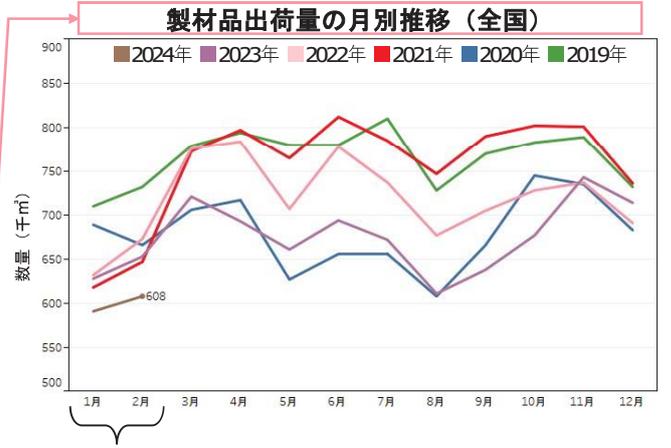
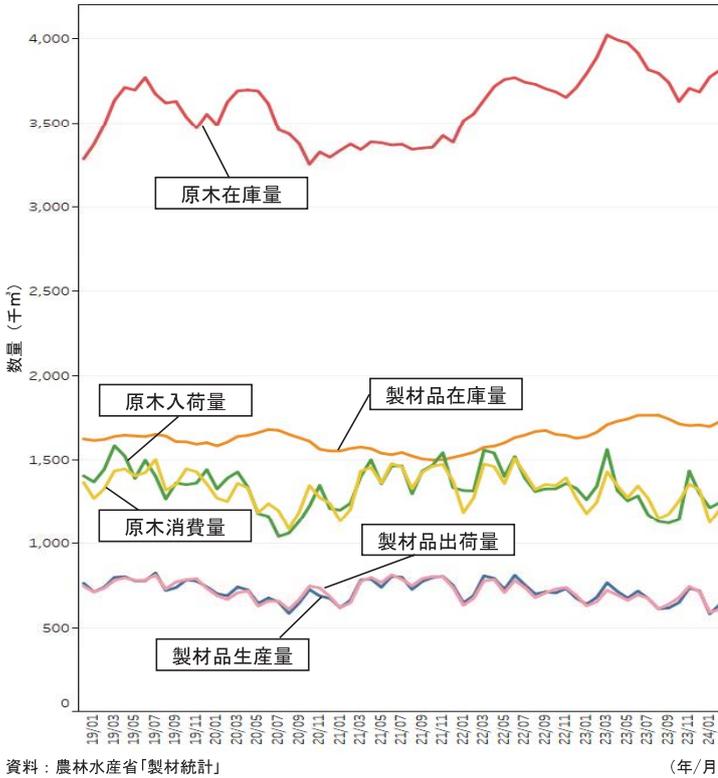


資料：国土交通省「住宅着工統計」

参考図表 3

工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向 製材（全国）

- ・2024年1～2月の原木の入荷量は2,459千m<sup>3</sup>（2019年比88%）。
- ・同様に製材品の出荷量は1,199千m<sup>3</sup>（2019年比83%）。

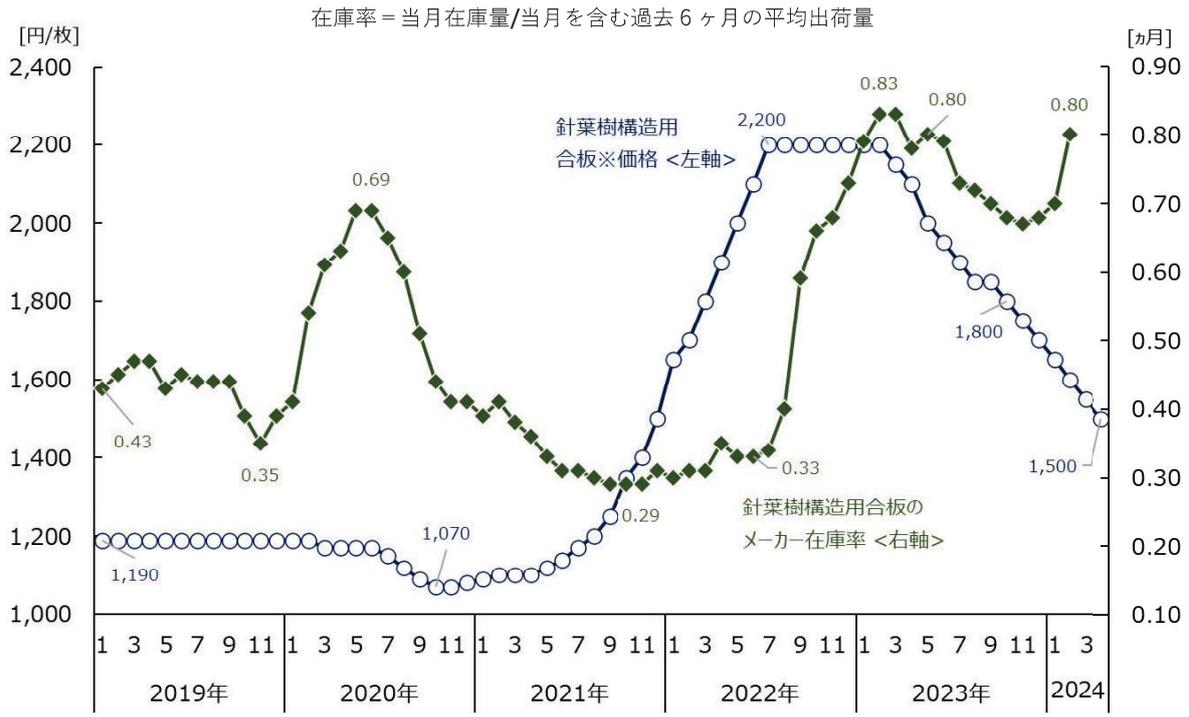


	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1～2月原木入荷量合計(千m <sup>3</sup> )	2,808	2,715	2,441	2,630	2,604	<b>2,459</b>
2019年との比較*	-	97%	87%	94%	93%	<b>88%</b>
1～2月製材品出荷量合計(千m <sup>3</sup> )	1,442	1,355	1,265	1,305	1,281	<b>1,199</b>
2019年との比較*	-	94%	88%	90%	89%	<b>83%</b>

※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

参考図表 4

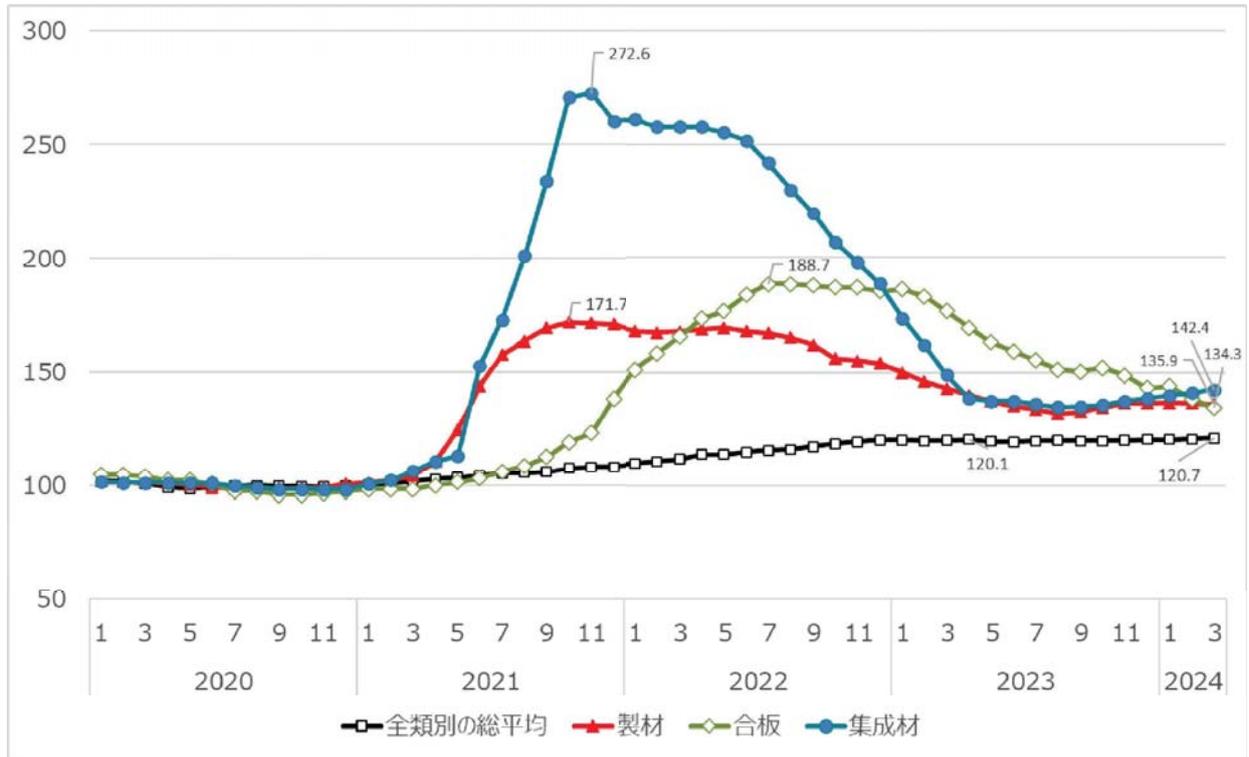
針葉樹構造用合板価格と合板メーカー在庫率の推移



※12.0mm×91cm×182cm、1類

資料：農林水産省「合板統計」、日本木材総合情報センター「市況検討委員会資料」

国内企業物価指数の推移（2000年平均 = 100）

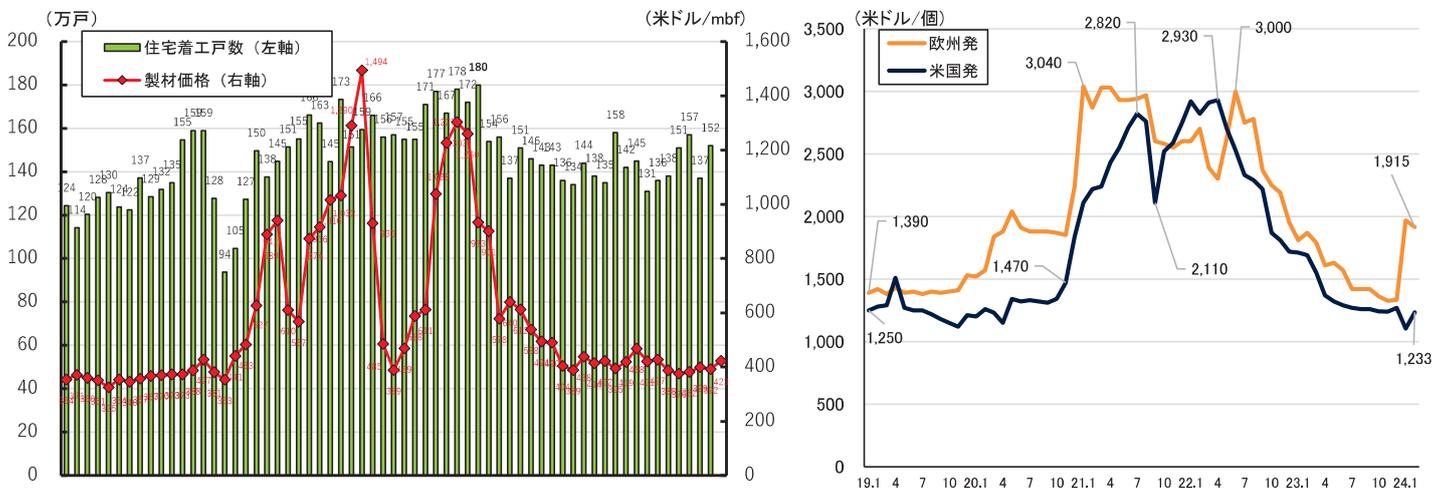


資料：日本銀行「企業物価指数」

米国における木材価格の動向等

資料：木材輸入の状況について (林野庁木材貿易対策室)

- 米国の住宅着工戸数(戸建て計)は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月に急落。その後、コロナ禍による在宅需要増加と住宅ローン金利低下により、増加傾向が続き、2022年4月には約180万戸(年率換算)を記録。2022年5月から住宅ローン金利の急騰により再度下落し、130~150万台で推移。2024年1月は前月比11%増の約152万戸となった。
- 北米の木材価格は、2020年夏から急上昇。同秋に一旦下がったものの同冬から再び急上昇し、2021年5月には1,494ドル/mbfを記録。以後急落したが、同年9月以降再上昇し、2022年2月には1,303ドル/mbfを記録。その後再度下落し、概ね400ドル/mbf前後で推移。2024年2月には423ドル/mbf(前月比+8%増)となった。
- 日本向けコンテナ運賃は、欧州発、米国発ともに一時期高騰していたが、2022年7月以降は下落傾向が続き、2023年末時点で2019年頃の水準に戻った。しかしながら、2024年1月には、紅海でのフーシ派攻撃によるサプライチェーンの混乱の影響で欧州発コンテナ運賃が高騰した。



資料：(住宅着工戸数) 米国商務省「住宅着工統計」(季節調整済み、年率換算、戸建て計)  
(製材価格) Random Lengths「Framing Lumber Composite Price」(月末価格、2022年6月以降は月中価格)

米国における住宅着工戸数と製材価格の推移

(注)40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横浜着、「欧州発」はRotterdam発横浜着。  
(出典) Drewry「Container Freight Rate Insight」  
資料：日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」

日本向けコンテナ運賃の推移